

V 指導と評価の指針

「指導と評価の一体化」は、道徳においても大切にしなければならないことは言うまでもありません。その実現には、一時間一時間の授業を充実させること、さらには授業後の子どもの「学び」の状況を把握することが不可欠となります。

<さらなる指導の充実のため……> 下記の事項について、具体的な教材に即してより明確にする。

- ・道徳的諸価値について理解する
- ・自己を見つめる
- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・自己の生き方についての考えを深める

指導と評価の一体化

<よりの確な「学習状況や成長の様子」の把握のため……>

一人一人の子どもについて各視点から把握に努めようとする。記録に留めておく。

- ・学習活動において児童、生徒が道徳的価値やそれにかかわる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを見取る。

そこで、下記に示す内容で教材毎に「指導と評価の指針」を作成することをおすすめします。きつと授業がよりシャープになり、児童、生徒一人一人の毎時の評価がしやすくなるに違いありません。

【指導と評価の指針の内容】

項 目	期待する「児童の学び」の例
(1)道徳的諸価値について理解する	価値理解 ・道徳的価値観を形成するにあたり必要な「内容項目」について説明する。特に、低・中・高学年における「解説編」の内容について発達段階に即して明確に記述する。教材中の具体的な文言にも言及する。
	人間理解 ・正しいとわかっているにも関わらず、時には難しく、そのようにできない時もある人間の弱さに着目、言及する。反対に、できた時などには心が晴れ晴れとしたりスッキリしたりするのも人間のよさであることにも触れたい。
	他者理解 ・友達など他者の意見との異同について認識、理解する。さらに、双方の意見や考えの「よさ」を捉えることができる。
(2)自己を見つめる	・道徳的価値について、自分との関わりを含めて理解し、内省する。また、これまでの自分の経験や体験、その時の感じ方や考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深める。自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる。
(3)物事を多面的・多角的に考える	・「多様な意見や考え、様々な視点（より多くの、より広い、より深い見方・考え方）」と考えたい。種々の登場人物について考えることを通してねらいとする道徳的価値に迫る、さらには、関連価値などにも触れながら核心となる内容項目に迫る。
(4)自己の生き方についての考えを深める	・道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。そこで、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。さらに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。 ・道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりし、そこから自己の生き方の課題を考える。

(中学年教材を例として)

1. 主題名 友達のことを考えて (B 友情, 信頼)
2. 教材名 「絵はがきと切手」 (『小学どうとく 生きる力 4』日本文教出版
出典: 小学校『道徳の指導資料とその利用3』文部省)
3. 本時のねらい 友達からの絵はがきが料金不足だったことを知らせるかどうか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して、友達のことを理解し、信頼し、助け合おうとする態度を養う。

4. 指導と評価の指針

項 目	期待する「児童の学び」の例
(1)道徳的諸価値について理解する	価値理解 「正子さん、きつとわかってくれる」と信じながら手紙を書き始めたひろ子の思いや考えを問うことにより、中学年の「友情, 信頼」のキーワードであり、基盤でもある「相手のことを理解する」「相互に理解する」ことの重要性に気付く。
	人間理解 正子さんに郵便料金が不足していることをちゃんと教えてあげることが大切であることはわかっている。しかし、なかなか言えないひろ子の弱さも理解できる。また、葛藤を乗り越え、手紙を書き始めたひろ子の「すがすがしい気持ち」についても自分ごととして理解する。
	他者理解 「意見の強い兄の言うとおりにしておいた方が無難」「親友だからこそ本当のことを言ってあげるほうがよい」「友達に同じ過ちをさせたくない」など料金不足を指摘することの根底にある考えは人それぞれであることを理解する。反対に、友達のことを思うがゆえに「言えない」という気持ちについても理解する。
(2)自己を見つめる	相手の気持ちや思いを考えることで仲よくできたなど、「友達のことを考える」とは、仲よく助け合うに加え「互いに理解する」ことの重要性について、これまでの経験や体験などからしみじみと感じたり、「もう少し相手のことを分かろうとするべきだったなあ」など思いをさせたりする。
(3)物事を多面的・多角的に考える	「友達の間違いについて忠告し、きちんと正すこと」が友達のことを考える第一歩だと主張する兄の立場、逆の母の立場、の2つともそれぞれ「友情, 信頼」という内容項目に根差すものであると広い視野から考えられること。また、正しいことを教えるというA「善悪の判断」や「正直, 誠実」に関わる内容項目、「きつとわかってくれる」というB「相互理解, 寛容」に関わる内容項目から意見や考えをもつことができる。
(4)自己の生き方についての考えを深める	友達と互いに信頼し、助け合うことができた具体的な体験や経験を想起し、今後の自分のありようについてさらに発展して考えることができる。また、「互いに理解し合う」ことについて、様々な場面を想定し自分の取るべき理想の姿をイメージできる。 これからは友達の気持ちや考えをしっかりと聞いて理解しようとするのが大切であるということに気づき、それを自分の生き方の指針にしようとする。

※日本文教出版では、全学年のすべての教材について「指導と評価の指針」を作成し、令和2年度版の教師用指導書に掲載する予定です。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。